

クラス番号	636	担当教員名	片山 善博
テーマ	共生の人間学（現代社会の人間と文化）		
著書・論文 研究課題等	近年の出版物 単著：『生と死の倫理』（2014）DTP 出版、共著：『共生社会 I—共生社会とは何か』（2016）農文協、『ヘーゲル講義録入門』（2016）法政大学出版局、『新時代の源氏学 9 架橋する〈文学〉理論』（2016）竹林社、『〈居場所〉の喪失—これからの〈居場所〉』（2015）学文社、『西洋哲学の軌跡』（2012）晃洋書房、『21 世紀における語ることの倫理』（2011）ひつじ書房、共訳：『ヘーゲルハンドブック』（2016）知泉書館、『ヘーゲル講義録研究』（2015）法政大学出版局 研究テーマ：近代ドイツ哲学、承認論		
ゼミナール概要			
キーワード：キーワード：他者、自己、文化、自然、社会			
<p>目的、内容、方法等：哲学的な思考の一つにさまざまな境界線を問い直すというやり方があります。たとえば、日常/非日常、自己/他者、生/死、健康/病気、心/身体、正義/不正、常識/非常識、男性/女性、大人/子ども、仕事/遊び、理性/感性、等々の境界線には現代社会の何らかの価値観が反映されています。境界を考えるということは、現代社会の価値意識がなんであるのかを考えることであり、また境界線を問い直す（ずらす）ことは、現代社会のものの見方を根本から変更することにもなります。物事の真相を探究するとはこうした作業の積み重ねとっていいかと思えます。このゼミでは、こうした作業を通じて、〈人間とは何か〉について考察することを目的とします。〈人間とは何か〉をめぐっては、生きることの意味は？人間の価値とは？死とは？私とは？他者と関わることは？コミュニケーションとは？生きる場（人の居場所）とは？などさまざまな問いが無数にありますが、参加者には多くの問いを自由にそして根本的に考えてもらいたいと思えます。ただし、ゼミの中で取り上げる具体的な中身は、参加者の個々の関心に基づいて決めていきます。専門演習 I では、専門演習 II での卒業論文作成に向けての基礎的な力の育成を目指します。そのために、リベラル・アーツ（自由に考えるための技法）に関する基本的な文献を読みます。さらに、自分で問題を見出し、論点を明確にし、それを展開していくためのさまざまな方法について学びます。文献の探し方や使い方、アンケートの取り方などの方法と実践を学び、そして調査したことを文章化していくための訓練を行います。さらに、文章化したものをもとに、口頭発表ができるようにします。授業計画：専門演習 I では、前期は文献購読を行います。文献については、初回に決めたいと思えます。文献を購読しながら、論点を探し出し、それを基に議論をします。また、議論したことを 600 字程度にまとめてもらいます。後期は、口頭発表を行います。ゼミ参加者の人数にもよりますが、一回ずつ担当することになります。自ら選んだテーマ（著書でもよい）についてレジュメを作成し、それをもとに口頭発表を行います。レジュメには、論点、調べたことの要約、そして自身のコメント及び疑問点を書いてもらいます。レジュメと口頭発表（20 分程度）を踏まえて、参加者間でディスカッションを行います。議論したことについてはそこで終わりにせず次週までに参加者全員にコメントを記した短い文章（600 字程度）書いてもらいます。論理的かつ相手に共感してもらうような表現方法を学び、自らの意見を簡潔に文章化できるようにします。これとは別に、年に数回、映画や音楽鑑賞などの時間を設けたいと思えます。専門演習 II では、各ゼミ生は自ら選んだテーマに即して卒業論文を作成します。卒業論文提出までに 2 回中間発表を行います。また、ゼミ時間外に個別指導を適宜行い、卒業論文を作成していくこととなります。ゼミ内では、各ゼミ生のテーマについて出来るだけじっくり議論ができるようにしていくつもりです。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>ゼミでは、参加者相互のコミュニケーションがとても大切になります。コミュニケーションを通して人は自己形成をしていくものと考えています。〈異なる意見を尊重する〉。そのことを通して互いを認めていこうという姿勢で参加してください。</p>			